

「第3次中期経営計画」で臨む 新世紀への船出にあたって



常務執行役員
馬場 克彦
Katsuhiko Baba

人の一生をたとえるのに、未知の大陸をめざして未知の海を航海するのに似ていると言われますが、企業が歩む道も、このたとえに非常に似ていると思います。

普段平穏なエーベル海でも、暴風雨で荒れ狂い、多くの船を飲み込んでしまう時もあります。このような時船乗りは、高波からの転覆をふせぐため、船を波に直角に向けてゆっくりと進めながら波の静まるのをじっと待ちます。

かつて山洋電気も、鏡のような海を滑るように進んだこともありましたが、高波にあいながら皆で力をあわせ、微速前進する事により苦難を乗り越えたこともあります。

今私達は新しい世紀に臨み、かの大陸にむけ船出をしようとしております。当然のことながら行く手には逆巻く高波が待ち受けており、この波を避けては進めませんし、めざす海岸の先には容易にたどりつけるものではありません。しかし、小さなボートでちょっとこげば着いてしまうような池のむこう岸とは違います。目標達成によって得られる喜びと成果のもたらす物の多さは、容易に想像がつくと思います。結局、良い船乗りのようにしっかりと海図を確認し、羅針盤によって航路を確認し、いかに安全に航海するかが、私達の最重要課題となります。

このたび決定した「第3次中期経営計画」とは、海図や羅針盤のようなものです。少し詳しく説明すると、企業理念・経営理念を礎に、3年後には全社売り上げの半分を今後の新製品・新市場・新規顧客にすることと、目標経営指標・各事業部の目標と施策、全社の取り組む施策を明示したものということになります。

折りしも山洋電気の周辺は、風雨強まり波高く、嵐の様相です。しかし山洋電気周辺だけが嵐なのではありません。この嵐は世界中に吹き荒れており、世界中が耐えているのです。過去このような嵐と変化は何回もあり、私達は自ら現在までの道を切り開いてきました。今回も「第3次中期計画」によって、たとえ濃霧がたちこめても道を誤らず座礁もせず、皆無事に目的地に到達できると信じています。

本号のテクニカルレポートNo.11には、各事業部の2000年度技術成果が記載されています。ある成果を得るために、関係者は息を切らせながら走り回り、また別の関係者は、手の豆をつぶしながらオールを漕ぎ続けこの成果を得ました。

山洋電気の伝統である、「時代の一歩先をゆく」の精神を育んだ技術者の成果がここに記されていますが、これはほんの一端であり、ここに記載されていない成果も数多くあることも忘れてはなりません。このテクニカルレポートをお読みいただくにあたって、文章の陰に隠れた技術者の努力をくみ取っていただければ幸いです。